

# 第3学年 国語科学習指導案

日 時 平成20年9月26日(金) 5校時  
学 級 3年 (男17名 女13名 計30名)  
指導者 伊藤誠規

- 1 単元名 まとまりに分けて書こう【書く】 (光村図書 3年下 P. 36～41)  
教材名 「せつめい書を作ろう」

## 2 児童と単元について

### (1) 児童について

児童はこれまでに、「ありの行列」(3年上)の学習で、段落の意味を理解し、まとまりに気をつけて読むことを学んでいる。その学習を生かして「おもしろいもの、見つけた」(3年上)では、事柄ごとに段落に分けて書いたり、様子が正しく伝わる表現を工夫したりすることによって分かりやすい文章になることを学んでいる。さらにこれまでの書く活動において、友達の文章のよいところを見つけたり、自分の書いた文章を推敲したりする学習を行ってきた。

その結果、児童は自分で文章を書く時にも意識的に段落を分け、文字や文を正しく書こうとするようになってきた。しかし日記では、一文が長くなったり、出来事をただ並べただけの内容になったりして何を伝えたいのか分からない文章が見られる。また、文章全体の構成を考えて書いている児童は少なく、順序が前後したり、書こうとすることの中心がはっきりしていなかったりして読む相手に分かりにくい文章になることもある。そこで児童には、事柄ごとのまとまりに分け、段落の順序を考えながら分かりやすい文章を書く力をつけていく必要があると考える。

授業での学び合いにおいては、友達の話を真剣に聞き、問題や発問に対してよく考える児童が多い。また、友達の発言を自分の言葉に言い換えたり、自分なりの根拠をもって発表したりする児童が増えてきた。しかし、みんなの考えを収束させながらまとめるような学び合いには至っていない。

### (2) 教材について

本単元は、第3・4学年の「書くこと」の領域に関する目標「相手や目的に応じ、調べた事などが伝わるように、段落相互の関係などを工夫して文章を書くことができるようにするとともに、適切に表現しようとする態度を育てる。」を受け、事柄ごとのまとまりに分け、順序を考えながら、読む人に分かりやすい文章を書く力を育てることをねらいとしている。

本教材「せつめい書を作ろう」は、自分の得意なことについて、分かりやすく説明する文章を横書きで書き、友達と知らせ合う内容となっている。自分の得意なことを、友達にも分かるように説明する文章を書くといった目的が明確になっており、児童は興味をもって意欲的に学習を進めると考える。また、例文を用いながら分かりやすく説明するための様々な工夫についてみんなで話し合っただけで気づいたり、自分の作った文章を推敲することの大切さをとらえたりすることもできる。

以上のことから、この教材は、事柄ごとのまとまりに分け、順序を考えながら、読む人に分かりやすい文章を書く力を育てることに適した教材であると考えられる。

### (3) 指導について

この単元の指導構想は以下の通りである。

第一次では、単元の学習内容や目標を確認し学習の見通しをもたせる。実際の説明書を見て、説明書とはどのようなものかを理解させる。そして題材について知らない、あるいは不得意な友達に対して分かりやすく説明する文章を書くという相手意識・目的意識を明確にもたせ、意欲づけを図りたい。その中で、自分が何について説明するのかを決めさせる。その際には、自分の得意なことを書き出したり、みんなで発表し合ったりして適当な題材を選ぶことができるように支援する。

第二次では、説明書を分かりやすく書くための工夫について学び合う活動を行う。教師の作った例文を通して話し合ったり、教科書の例文を用いたりすることによって児童自らが工夫に気づき、自分の説明書に取り入れようとするようになる。また、横書きのきまりについて理解させ、本単元だけでなく今後の生活においても生かすことができるようにする。

第三次では、説明書の本文を書く活動を行う。第二次で学習した工夫を取り入れながら下書きをさせる。時間ごとに説明書を交流し、友達の書き方の工夫を見つけたり、自分の文章を赤ペンで推敲したりして、説明書をよりよいものにしようとする態度や、間違い・分かりにくいところを直す技能を育成する。そして、改善点に注意しながら丁寧に清書させる。

第四次では、班の中で発表会を行う。順番を決め、一人ずつ説明書を発表する。発表が終わったら、感想カードを書いて渡したり、伝えたりして交流させる。説明書は、班ごとに一冊の冊子にまとめ、教室に置いていつでも見るができるようにする。

【研究仮説に関わる指導の工夫】(○：単元全体、●：本時)

- 学び合ったことを生かして書く、書いたら交流したり推敲したりしてまた書くといった活動の流れで指導計画を組むことにより、学び合いと書く活動を一体化させ、表す力を高める。(表す力)
- 単元を通して、友達と同じ考えでも自分の言葉で話させたり、内容をつけたした発言をさせたりすることによって、友達の考えをみんなが受け止め、理解できるようにする。また、掲示してあるよい話し方の例を参考にさせ、「だから」「つまり」といった表現で考えを収束させながらまとめることができるようにする。(表す力・共に高まろうとする態度)
- まとまりに分けていない例文をどのように直せば分かりやすくなるか話し合ったり、まとまりに分けて小見出しの書いてある例文の分かりやすいところを話し合ったりする。それによって、分かりやすく説明するための構成の工夫について児童自らが気づき、理解できるようにする。(考える力)

### 3 単元の目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

- 自分の得意なことを説明書にして、友達に伝えようとする。

(2) 書く能力

- 相手や目的に応じて、分かりやすく書くことができる。(書くこと ア)
- 自分の考えが明確に伝わるように、事柄ごとのまとまりに分けることができる。(書くこと ウ)
- 説明することの順序に注意しながら、文脈の通った文章を書くことができる。(書くこと エ)
- 文章のよいところを見つけたり、間違いなどを正したりすることができる。(書くこと オ)

(3) 言語についての知識・理解・技能

- 句読点を適切に打ち、また、段落の始めは行を改めて書くことができる。(言語事項 ウ(イ))

### 4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
○説明書に関心をもち、分かりやすく伝えるための工夫を取り入れながら書こうとしている。	○全体の内容を事柄ごとのまとまりに分け、それぞれのまとまりに小見出しをつけている。 ○語と語の続き方や文と文との意味のつながり、まとまりの順序に注意しながら、文脈の通った文章を書いている。 ○友達の書き方の工夫を見つけて取り入れたり間違いや分かりにくいところを正したりして、説明書をよりよいものにしている。	○横書きのきまりを理解している。  ○句読点の使い方や段落の始め方、また、文字や文章の間違いなどに気をつけながら書いている。

5 単元指導計画（13時間扱い）

段階	時	主な学習内容（○）と学習活動（・）	評価規準	学び合いの重点
第一次	1	○ 単元の学習内容や目標を知り，学習の見通しをもつ。 ・自分の得意なことを発表し合う。 ・実際の説明書を見て，説明書とはどのようなものかを理解する。 ・相手や目的を明確にし，説明書作りの計画をつかむ。	<b>関</b> 自分の得意なことを説明書にする活動について見通しをもち，意欲的に取り組もうとしている。 (発言・態度)	
	2	○ 何について説明するかを決める。 ・自分の得意なこと，よく知っていることを書き出してみる。 ・説明書にできそうなものを考え，発表し合う。 ・何について説明するかを決め，ノートに書く。	<b>関</b> 自分の得意なもの，よく知っていることを進んで考え，何について説明するか決めようとしている。 (発言・ノート)	何について説明するかを決める際，適当な題材かを話し合う活動
第二次  本時	3	○ 分かりやすく伝えるための構成の工夫について話し合う。 ・まとまりに分けていない例文を読み，どのように直せば分かりやすくなるか話し合う。 ・まとまりに分けて小見出しの書いてある例文を読み，分かりやすいところを話し合う。 ・小見出しについて理解する。 ・自分の説明書では，どんな小見出しをつけたらよいか考える。	<b>書</b> まとまりに分けて順序よく書いたり，まとまりごとに小見出しをつけたりすることによって分かりやすい説明書になることを理解している。 (発言・ノート)	分かりやすく伝えるための構成の工夫について話し合う活動
	4	○ 説明することの順序を考えながら目次を作る。 ・前時に続き，自分の説明書の小見出しを考える。 ・教科書における馬場さんの目次を読み，気づいたことを話し合う。 ・目次について理解する。 ・小見出しの順序を考えながら目次を作る。	<b>書</b> 自分の説明書の小見出しを完成させ，順序を考えながら並べている。 (発言・ノート)	
	5	○ 教科書の例文を読み，馬場さんの説明書の工夫について話し合う。 ・馬場さんの説明書を読む。 ・「注意事項」や「ちょっとひと言」，絵を入れるなどの工夫について話し合う。 ・自分の説明書で，どんな工夫を取り入れるか考え，ノートに書く。	<b>関</b> 説明書の書き方について，分かりやすく伝えるための様々な工夫を見つけ，自分の説明書に取り入れようとしている。 (発言・ノート)	教科書の例文における分かりやすく伝えるための工夫について話し合う活動
	6	○ 横書きのきまりを理解する。 ・教科書P. 36「横書きのとき」を用いて，横書きのきまりについて理解する。 ・これまでの学習を振り返り，説明書の工夫について再度確認する。	<b>言</b> 横書きのきまりを理解している。 (発言・ワークシート)	横書きのきまりを見つけ，話し合う活動

第三次	7 ・ 8 ・ 9	○ まとまりごとに説明書を書く。(下書き) ・自分の説明書の標題を決める。 ・目次のまとまりごとに、分かりやすく伝えるための工夫を取り入れながら説明書を書く。 ・時間ごとに説明書を交流し、友達の書き方の工夫について話し合ったり、間違いや分かりにくいところを正したりする。	<b>書</b> 分かりやすく伝えるための工夫を取り入れながら、文脈の通った文章を書いている。(記述) <b>書</b> 友達の書き方の工夫を見つけて取り入れたり、間違いや分かりにくいところを正したりしている。(推敲の様子)	友達の書き方の工夫について話し合う活動
	10 ・ 11	○ 清書し、説明書を完成させる。 ・下書きを見直し、個々に改善点を確認する。 ・前時までの説明書を丁寧に清書する。	<b>言</b> 句読点の使い方や段落の始め方、また、文字や文章の間違いなどに気をつけながら、丁寧に清書している。(記述)	
第四次	12	○ 互いに読み合い、感想を伝え合う。 ・班の中で発表会を行う。 ・感想カードに感想を書き、交換する。 ・班の代表がクラス全体に説明書を発表し感想を交流する。	<b>関</b> 進んで自分の説明書を発表したり、友達の説明書について感想を伝えようとしていたりしている。(発表・感想)	説明書を発表し合い、感じたことを交流する活動
	13	○ 本単元を振り返り、まとめをする。 ・班ごとに説明書を冊子にする。 ・本単元を振り返り、まとめをする。	<b>関</b> 本単元を振り返り、学んだことなどを発表しようとしている。(発言・態度)	

## 6 本時の指導

### (1) 目標

まとまりに分けて順序よく書いたり、まとまりごとに小見出しをつけたりすることによって、分かりやすい説明書になることを理解できる。

### (2) 展開

段階	学習内容と学習活動 (◎)	時間	教師の支援 (◇) と評価 (◆)	備考
つかむ	1 本時の学習課題をつかむ。 せつめい書を分かりやすく書くには、どんなくふうをすればよいか考えよう。	3	◇前時の学習をもとに、自分が何について説明するかを想起させる。 ◇本時は、説明書を分かりやすく書くための工夫について話し合う時間であることを確認する。	学習の計画板書
ふかめる	2 学習課題に取り組む。 ◎ まとまりに分けていない例文を読み、話し合う。 ・分かりにくいところやその理由。 ・どのように直せば分かりやすくなるか。	2 2	◇教師の作った、まとまりに分けていない例文を提示する。 ◇児童には例文を書いたプリントを配布し、考えやすいようにする。 ◇発表の際は、理由をつけて発表させたり、友達と同じ考えでも発表させたりする。	紙板書プリント

	<p>◎ まとまりに分けて小見出しの書いてある例文を読み、分かりやすいところについて話し合う。  (気づかせたいところ)  ア 順序よく書いている。  イ まとまりに分けている。  ウ まとまりに題がついている。</p> <p>◎ 小見出しについて理解する。</p> <p>◎ 自分の説明書では、どんな小見出しをつけたらよいか考える。</p> <p>◎ 児童の小見出しを紹介し、感想を交流する。</p>		<p>◇後から、まとまりに分けて小見出しの書いてある例文を提示し、まとまりに分けていない例文と比較させることによって、まとまりに分けることのよさをとらえさせる。</p> <p>◇まとまりに分けて小見出しの書いてある例文を用いて、小見出しの存在に気づかせる。</p> <p>◇小見出しとは、一つの文章をいくつかに分けて、それぞれにつける題であることをとらえさせる。</p> <p>10 ◇全ての小見出しを完成させる必要はないが、複数の小見出しを考えるよう指示する。  ◇小見出しを書けないでいる児童には個別に支援を行い、具体的な例を挙げて参考にさせる。</p> <p>5 <b>◆書</b>まとまりに分けて順序よく書いたり、まとまりごとに小見出しをつけたりすることによって、分かりやすい説明書になることを理解している。  (発言・ノート)</p>	<p>紙板書</p> <p>ノート</p> <p>小見出しの板書</p>
<p>まとめ</p>	<p>3 学習を振り返る。  ◎ 学習の感想を発表し合う。</p> <p>4 次の学習の見通しをもつ。</p>	<p>5</p>	<p>◇「今日の学習で分かったこと」や「これからがんばりたいこと」について感想を発表させる。</p> <p>◇次の時間は、続けて小見出しを書き、その順序を考える時間であることを確認する。</p>	

(3) 本時の評価規準

評価規準	具体の評価規準		努力を要すると判断された児童への手立て
	A	B	
<p><b>書</b> まとまりに分けて順序よく書いたり、まとまりごとに小見出しをつけたりすることによって、分かりやすい説明書になることを理解している。  (発言・ノート)</p>	<p>提示された例文の分かりにくいところや、どのように直せばよいかなどを理由をつけて説明し、自分の説明書の小見出しを順序に気をつけながら書いている。</p>	<p>まとまりに分けて順序よく書くことのよさを理解し、自分の説明書の小見出しを書いている。</p>	<p>自分の説明書の小見出しを考える場面で、個別に支援を行い、具体的な例を挙げて参考にさせる。</p>